芦屋の西国街道と文化財建造物・ルート

見学ポイントの概略説明

① 阪神香櫨園駅

阪神香櫨園駅は阪神電鉄本線の停車駅として明治 40 年開業。近畿の駅百選に選ばれています。香櫨園の名称は大阪船場の砂糖商・香野藏治と櫨山喜一が開園した香櫨園遊園地に由来します。香櫨園は西宮七園のひとつであり、この近辺は阪神間モダニズムを象徴する住宅地です。また、駅の南側は西宮戎から続く旧西国街道です。

② 浜街道分岐点道標

西国街道は、江戸時代、西宮戎に参詣者が集まるようになってその門前を通るようになったといわれていますが、西宮市内から芦屋市内に入るあたりで本街道と浜街道に分岐します。浜街道は、ほぼ現在の国道４３号線沿いにあり、大阪方面からの中国街道と連絡し、灘五郷をつなぐ産業道路としての、本街道は、ここから現在の国道 2 号線ぞいとなり、京都からの西国往来の主幹線道路としての役割であったかと思われます。この道標は「右西宮・左中山寺」とあり、西国から宝塚方面に向かう分岐点でもあったようです。

春日町の旧街道

③ 矢穴跡が残る石積み

芦屋市には大阪城築城に際し、多くの石材を産出した「徳川大阪城東六甲採石場」があります。また、市内にはおそらく城の石垣のために切り出されたと思われる巨石をところどころに見ることができます。この石積みが大阪城に使用される予定であったものかどうかは定かではありませんが、江戸時代に切り出された石材であろうと思われますので、想像を膨らまして観察するのも一興です。

④ 金津山古墳

金津山古墳は 5 世紀後半に築造された前方後円墳ですが、鎌倉時代から室町時代にかけて前方部が削られていおり、一見しては円墳のように見えます。別名、黄金塚とも呼ばれ、この付近が平安時代阿保親王（嵯峨天皇の皇子、在原業平の父）の所領であったことから、阿保親王が打出村民の困窮に備えて黄金千枚、金瓦一万枚を埋めたという伝説が残っています。打出駅北側に「阿保親王廟」の石碑があり、天神社を過ぎ、2 号線、JR を超えてさらに北へ向かうと「阿保親王陵」があります。

⑤ 打出天神社灯篭

打出天神社の創建時期は明らかではありませんが、この付近が京から西国へ向かう交通の要衝であったことから、天神信仰が盛んになった平安時代末期に北野天満宮を勧請したものと思われ、古い歴史を持つ神社と考えられます。鳥居のすぐそばの石灯篭は「寶暦四年」の文字が読み取れ、1755 年に作られたものであることがわかります。この付近は建武 3 年（1336 年）足利尊氏と楠木正成との間で起こった「打出の合戦」の古戦場でもあり、国道北側に「大楠公戦碑」が昭和 11 年に建立されています。

⑥ 旧松山家住宅松濤館（芦屋市立図書館打出分室）（国登録有形文化財）

所有者：芦屋市
設計者：不明
構　造：鉄筋コンクリート・石造２階建
建築面積：150.12 ㎡、延床面積：300.24 ㎡
竣工年：明治時代、移築年：昭和 5 年、平成 21 年登録、他・兵庫県景観形成重要建造物

この建物がある敷地は仏具商松山與兵衛の所有地で、昭和 27 年に芦屋市がこれを購入し、松山の美術品収蔵庫であった「松濤館」を改修して市立図書館を開館した。本建物は、松山氏の著書により、御堂筋建設に伴って撤去となる銀行の建物を買い取ってここに移転したという記述があります。建物の特徴は東側壁面と北側壁面は花崗岩をルスティカ様式風に積みあげた重厚な外観であり、ルネサンス期のパラッツォ建築風の意匠がみられます。

⑦ 打出公園のサルが入っていた檻

この公園は、村上春樹のデビュー作、「風の歌を聴け」に登場する「猿の檻のある公園」です。村上春樹氏は芦屋市立精道中学校から神戸高校へ進みますが、その時代を芦屋で過ごしていますので、この付近の様子が作品によく登場します。ここは、古い芦屋市民にとっては「芦屋にも動物園あったんやで！」という妙な自慢を楽しむネタでしたが、老朽化が進み撤去される方向で進んでいると聞いております。非常に残念です。

⑧　西国橋

西国街道は打出天神社の前を過ぎて、西北寄りに進み、打出小槌町、宮塚町、茶屋之町を通り、国道２号線と合流します。宮川に架かるこの橋は「西国橋」と名付けられていますが、西国街道を通る街には「西国橋」と名付けられた橋が結構あるようです。旧街道の道幅は三間から三間２尺であったとのことですが、概ねこの幅の道が緩いカーブを繰り返しながら市内を横断しています。太古の昔の「蘆屋驛」がどこにあったかは諸説あるようですが、芦屋市民としてはこのあたりを一押しとしたいと思います。

⑨　旧芦屋市営宮塚町住宅（国登録有形文化財）　※内部見学

所有者：芦屋市
設計者：芦屋市建築部設計課
構　造：石造２階建
建築面積：177 ㎡
竣工年：昭和 28 年（1953 年）、平成 30 年（2018 年）改修　　令和 2 年登録

戦後、深刻な住宅不足に陥っていた芦屋市は、応急的に木造の市営住宅の建築をすすめていましたが、昭和 27 年になって鉄筋コンクリート造の公営住宅の建築を始めます。この宮塚町住宅は公営住宅標準設計 52FC を採用していますが、外壁に日華石を用いた大変珍しい特徴を持っています。平成 30 年に大改修が行われ、商業施設として生まれかわり、それぞれ個性あるお店や工房が入居しています。
※参考資料-1

⑩　旧芦屋郵便局電話事務室（芦屋モノリス）（国登録有形文化財）※内部見学

所有者：西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）
設計者：上浪　朗（逓信省）
構　造：鉄筋コンクリート造２階建
建築面積：732.0 ㎡　延床面積：1694.44 ㎡
竣工年：昭和 4 年（1929 年）　平成 29 年登録　他・兵庫県景観形成重要建造物

電話交換局として昭和 4 年に新築された建物で、当時地元に住む財界人から 40 万円の寄付があったという芦屋らしいエピソードがあります。外壁にはスクラッチタイルが用いられていますが、戦時中は防空迷彩でコールタールで塗りつぶされて、戦後はリシン吹付で白色でした。昭和 61 年に大改修が行われ、外観は元の表面を取り戻し、平成 17 年からは結婚式場・レストラン「芦屋モノリス」として生まれかわっています。外部のレリーフや、建物正面（北側）の連続アーチを持つ側廊がこの建物の大きな特徴となっています。

⑪　芦屋警察署

所有者：兵庫県
設計者：兵庫県営繕課　施工者：畑工務店
構　造：鉄筋コンクリート造３階建
建築面積：732.0 ㎡　延床面積：1694.44 ㎡
竣工年：昭和２年（1927 年）

この警察署は、昭和２年に地元精道村と村民有志の寄付によってできたもので、設計は当時兵庫県営繕課課長であった置塩章の指導によるものと思われます。平成 13 年に警察署そのものは建て替えられましたが、この正面玄関は部分的に保存されました。アーチの要石のミミズク（夜間警備？）が印象的ですし、階段部のタイルやステンドグラス、彫刻なども十分に楽しめます。

⑫　芦屋カトリック教会　　※内部見学

所有者：芦屋カトリック教会
設計者：長谷部　鋭吉
構　造：鉄筋コンクリート造、地上２階　地下１階
延床面積：546.23 ㎡
竣工年：昭和 31 年（1956 年）　　芦屋市景観重要建造物

鐘楼が収められた高い尖塔、正面のステンドグラス、入口に続く大階段が特徴的な建物です。築造は昭和 30 年代であり、古い建物ではありませんが、芦屋川河畔の景観を形成する重要な建造物であり、長く芦屋市民に親しまれています。

⑬芦屋川河川敷からの景観

芦屋川畔は「芦屋川の文化的景観」として、2012年に芦屋市の指定文化財（記念物）に指定されています。河畔には下流から松浜公園、鵺塚、阪神電鉄芦屋川橋梁、芦屋警察署、芦屋カトリック教会、業平橋、ルナホール、芦屋川堰堤、官営鉄道芦屋川隧道、仏教会館、のほかこの後の業平橋、ルナホール、芦屋川隧道、芦屋川堰堤、旧山邑家住宅と文化財建造物・旧跡が続く、市民の憩いの場所でもあります。

⑭芦屋市民会館・ルナホール

所有者：芦屋市
設計者：山﨑泰孝（板倉準三建築研究所）　施工：大林組
構　造：鉄筋コンクリート造、地上４階　地下１階
竣工年：昭和39年（1964年）

この建物も築年代は昭和30年代で古い建物ではありませんが、芦屋河畔の象徴的な建物のひとつです。築50年を迎えるにあたり、リニューアル等が計画されているようで、景観の保存も含めて気になるところです。

⑮仏教会館（国登録有形文化財）

所有者：公益財団法人　芦屋仏教会館
設計者：片岡　安
構　造：鉄筋コンクリート造　地上３階　地下１階
建築面積：200.0 ㎡　延床面積：753.98 ㎡
竣工年：昭和２年（1927 年）　平成 30 年登録　　他・芦屋市景観住協建造物

近代建築に東洋風・印度風の細部意匠を取り入れたデザインで、ベージュの外壁と緑豊かな外構は芦屋川の景観とよく調和しています。阪神・淡路大震災後に、建築物と一体となった前庭を保存するため、曳家工法による移築が行われた経緯があります。芦屋市内で登録有形文化財指定第一号となっています。竣工から 90 年を経過しており、歴史的にも価値のある建造物です。

⑯業平橋　（土木学会推奨土木遺産）

所在地：芦屋市業平町（国道２号線）
橋長：33.4m　幅員：27.3m
形式：鉄筋コンクリート T 桁橋

昭和初期の業平橋

阪神国道（現国道２号線）は明治開港から大阪神戸間を結ぶ大動脈でしたが、大正期に入りその交通量が劇的に増大するに至って、道路線形・幅員を大幅に見直す大改築工事が行なわれました。大正９年に着手、大正 14 年に全線が竣工しています。中央部に電車軌道を有し、有効幅員 15 間（27.3m）のまさに大規模プロジェクトで、当時最新の土木技術で設計施工されました。新国道のそれぞれ橋は高欄、親柱に特徴的な装飾が施されており、この業平橋もモダニズムの象徴的な建造物の一つといえるでしょう。

※参考資料-2